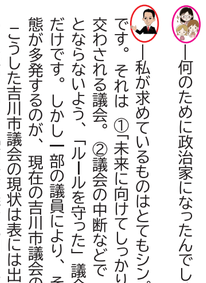

インタビュアー
前記

恒例のママさん達との懇談会「教えて!市長!」普段から市議会の中継を見たり、「市長ブログ」を読んでいる辛口ママさん達。
今回もかなり際どい発言が飛び出し……さながら**「ママ達が見た吉川市議会の現実!」に!?**

インタビュアー―こんにちは!今回も楽しく有意義な「教えて!市長!」にしたいと思います。中原市長、ママさん達、よろしくお願いします!

ママさん達―市長にいろいろとまちの事を聞きたいと思って準備してきました!よろしくお願いします!

中原市長―元気いいなぁ、皆さん(笑)。こちらこそ、よろしくお願いします。

2期目に向けた抱負を!

―早速ですが。まずは、もう半年以上前のことになってしまいますが、中原市長2期目のご当選、おめでとうございます!2期目の抱負をぜひ!

―ありがとうございます。選挙が終われば、ノーサイド。これまで通り、まちのリーダーとして、全ての市民、全ての地域のために全力で頑張りたいと思います。まだまだ課題は山積ですし。

―でも、市役所の建設も約16億円削減して完成。難しいと言われていた吉川美南駅東口の開発も国との調整をクリアしてスタート。

新中学校建設も素早い決断で来春には完成。1期目4年間、すごいスピードでまちづくりが進んだと思います!

―ありがとうございます。「市長キャラバン」「どこでも市長」などを通して、市民の皆さんと力を合わせて、スピードある市政運営が出来ました。

―私が印象に残っているのは、市長になられてすぐに「水道水へフッ素化合物を注入するフロリデーション事業の推進完全中止」「医師会に属していない病院でもワクチン接種が可能になる」など私達母親の不安に対しても対応してもらえたことで、とても感動しました。

また「保育園に通うための点数の改革」を進めてくれたので「兄弟姉妹がみな同じ保育園に通える」「自営業のママでも保育園に預けやすくなった」ことも嬉しかったです。

―けれど、まだやるべき事はたくさんあります。大きなテーマとしては、「まちづくり」では①「三輪野江地区の道の駅・農業パークの建設」②「旭地区の市民農園再整備」③「吉川美南駅東口に文化拠点を整備」などが。

皆さんの関心の高い「子育て・教育」では①「虐待防止」②「不登校・ひきこもり支援」③「ICT教育の導入」などが重点事業となります。

―「道の駅」は私達もワクワクして待っているので、頑張って欲しいです!あと、最近よく聞く「非認知能力」について教えてください。

―やり抜く力・自制心・協調性などの数字では測れない「生きてゆく力」を「非認知能力」と言います。今、吉川市では子供達が「志」を持って社会に飛び立つことを教育の目標にしていて、その「志」の実現のためにも、そうした「非認知能力」の向上が大事だと考えています。今後も学識者や地域の方々のご協力の下、様々な形で「非認知能力」向上の教育を進めてゆきたいと思っています。

共産党の雪田きよみ議員が海外旅行のために議会を欠席! 同じ共産党の佐藤清治議員は消防議会を無断欠席!

―でも、議会では一部の議員さんがいろいろ騒いでいますよね。毎回、この議員は何を言ってるのだろうかとため息しか出ません…。

―よくご存じで(苦笑)

―ええ、私達、議会中継も市長のブログもチェックしてますから!(笑)9月議会も酷かったし、市長もかなりブログに書いていましたけど、まず、共産党の議員さん達にびっくりです。無断欠席や海外旅行で議会を欠席なんて許されるのですか?

―僕もびっくりです(苦笑)。

―共産党の雪田きよみ議員(1期約4年・今年59歳)の発行している市政報告のペーパーも必ず読んでいるのですけど、毎回、事実と全く違うことを、よくもこれだけ繰り返し発信出来るなぁと逆に感心しています。

でも、「水防議会」を家族との海外旅行の為に欠席したことは一切書いてなかったと思います。

※「水防議会」―江戸川の氾濫に備えるために、春日部市、松伏町、吉川市、三郷市の連合で構成された議会。それぞれの自治体から市長と選ばれた議員が参画している。

―感心って(苦笑)

―ええ、本当に。毎回毎回ひどいので逆に感心しています(笑)。しかも指摘されても謝罪も無いなんてありえないと思います。同じ共産党の佐藤清治議員(6期約24年・今年69歳)も「消防議会」を無断欠席し、「消防議会」の副議長を辞職することになったと市長のブログで読みました。

※「消防議会」―吉川市と松伏町の連合で構成され、消防事業について議論する場。

―ええ、「消防議会」は松伏町との連合なので、恥ずかしい限りです。他にも自民党の加藤克明議員(2期約8年・51歳)も同じように消防議会を失念し、欠席するという失態が・・・。しかし、そうしたことが大きく市民に報告されることはありません。

市民の付託を受けた議員として、「議会」という何よりも最優先されるべき公務を海外旅行や無断で欠席する…そのようなことは「あるまじき行動」ですし、そうした議員が今後、防災や消防について語る資格があるのかと。

―その通りですよ!市民として恥ずかしいし、税金を何だと思っているのかしら!

―そもそも、一年のはじめに、私たち行政が議員に提案する「予算案」を否決し、さらに一年の終わりの決算も否決する「共産党」が、「○○が実現しました!」と自分達が何かを実現したかのように表現すること自体がすでに矛盾しています。納得いかない部分があれば、その部分の予算を修正した案を出せば良いのです。それをせずに、何もかも反対するということは、市の職員の給料や子供達の給食をはじめ、医療費や生活保護費など弱者への様々な支援策にも反対しているのと同じです。

市民の皆さんにはぜひ、共産党の議員達のこうした現実を知っていただきたいと思います。

―市長のブログ読むまで、全然そういうことは知りませんでした…。もっと、そうしたリアルな実態の情報が欲しいな…。今回は「市民の会」の議員さん達についてもかなり書かれていて、ビックリしました。

議会のルールを無視し、虚偽の情報発信を続ける「市民の会」の伊藤議員と岩田議員

―ビックリ?(苦笑)

―ええ、「市民の会」についても、いよいよ市長が沈黙を破るのかと!(笑)

―さすが議会マニア(笑)。「共産党」の議員と同様にひどい行動を議場でとりつづける「市民の会」の議員に対して、もうみんな我慢の限界でして…(苦笑)。

―知ってます!(笑)

―まずは、5期、約20年市議を務め、81歳になられる伊藤正勝議員ですが、毎回、議会のルールを無視し、常に持論を展開し続け、しかもその発言に「誹謗中傷、人格攻撃、虚偽の情報発信」が多く、今回の議会でも約3時間もの議会空転の時間が生まれました。

―伊藤議員は、以前に市長選挙にも立候補してますよね?

―ええ、2回立候補されており、「私が市長だったら」とよく口にされます。

また、「税金の無駄使い」や「職員の働き方改革」についてもよく発言されますが、伊藤議員への答弁調整や、議会中断にどれだけの職員が振り回され、その時間が税金の無駄使いにつながっているか…。

過去に市長選挙に立候補されたのだからこそ、全体を俯瞰する目を持ち、「市民のための議論」という立場に立った行動をしていただきたいと切に願います。

―伊藤議員が発行している「市政報告紙」もよく読みますけど、議会でのそうした自分の問題行動は一切書いてなくて、一方的に市長を批判する内容で腹が立ちます。

―私は批判も議論も大歓迎です。それが議員の役割ですから。でも、ルール違反と嘘ばかりの発言はダメです。市政の停滞を招きます。伊藤議員の「市政報告紙」も結局そうした伊藤議員の行動のあり方と同じ構造になっていますから、皆さんも読む前にぜひ議会中継に目を通し、何が真実なのかを知った中で、報告紙を読んでいただければと思います。

―議員1期目の岩田京子議員(48歳)にもガッカリです。

―私もガッカリです(苦笑)。岩田議員も伊藤議員と同様に、「議会での質問のルールを守らない」ことを頻繁に行い、さらに、議場やご自身の「市政報告紙」において、「誤った情報発信」を繰り返しています。

また「子供達が見たらどう感じるだろう」と悲しくなるような誹謗中傷のイラストまでご自分で描き、何度も「やめてほしい」とお願いしても、酷い内容の発信を続けています。

―今回の議会でも、市長が正式に抗議の申し入れをしたと聞きました。

―ええ。今回の9月議会は「決算」について話し合う大事な議会でしたが、登壇した岩田議員は誤った数字を羅列して吉川市の財政状況についての批判を繰り広げました。私への口撃ならまだ我慢も出来ますが、市民に不安しか与えないようなその発言をさすがに見過ごすわけにはいきませんからね。

結果、岩田議員は議会で、かなりの部分の数字の訂正を行ったのですが、質問を丸ごと削除する部分もありました。そうしたこと自体が「市民の混乱、不安」「職員の職務負担増、混乱」=「税金の無駄使い」を招くのです。

―けれど、議場では岩田議員は謝罪の言葉を述べずに、「以上です!」と言ってスタスタと降壇しましたよね?

―議会中継をよく見てるなぁ(笑)。そうなんですよ。そこで、「市民や議会を混乱させたという認識はないのか?」と岩田議員に尋ねたところ、「混乱?何か混乱したのか?五分五分でしょ?」と、まるで責任の一端が私達にあるかのような発言をされ、ビックリしました。

ルールを守らず、嘘の情報発信をし、指摘を受けても謝罪もない……、市民の付託を受けた議員としての責任とは何なのか……と。

市民派政治家って何?

―「市民派政治家」の定義とは何なのでしょうか?

―何なんでしょうね?(苦笑)でも、政治家とは市民のために働くものですから、そもそも皆、「市民派」でなければならないはずですが、最後の判断や決断を「政党のため」「イデオロギーのため」「各種団体のため」そして「自分の選挙のため」に行わない政治家こそが「市民派」なのではないでしょうか?

持続可能な未来を次世代に渡すために、時には、市民に厳しい現実を伝えなければならないこともあるのです。いい顔ばかりしている議員は要注意ですね(笑)。

―9月議会では齋藤議員や濱田議員ともやり合っていましたね(笑)。

―ええ、齋藤詔治議員(8期約32年・75歳・自民党を除籍)の行動も整合性の無いことが多く、今回の議会ではそれが特に酷く表面化しました。内容は「旧庁舎の解体事業」についてでしたが、①解体事業の予算には賛成しながら、解体工事の契約には反対。②「多くのトラブル、問題がある事業だ」と発言しながらも、具体的なトラブルの内容は説明しない。③当初は旧庁舎を支えていた地中の杭を「抜くな」と主張しながら、現在は「全部抜け」と発言。④当初は「地中杭の長さは60mあるはずだ」と主張し、行政側を糾弾。しかし結果は私達が示した通りの約30m。混乱を招いたことに対して公式に発言は無し。

――という行動をとり、多くの市民からも私のところへ、「齋藤議員の発言に一貫性がない!」「毎回、議会で言いがかりのような質問を繰り返し、自身が質問されると全く回答しないのはどういう了見なのか!」「市民を混乱、分断させたいのか!」との意見が届く始末でした。

―市長はSNSの中で、「以前も、消防議会において、齋藤議員ご自身が頭の中で作ったストーリーを妄信し、数年かけ散々批判を展開したけれど、結果、何も出ず、尻すぼみに終わるということがあり、またかと思われている市民の方も多いと思う」とも書かれていましたよね…。濱田議員はどうだったのですか?

障害者や拉致被害者を巻き添えにする「市民の会」降旗議員、稲垣議員、濱田議員

―う〜ん、あの一般質問も酷かった(苦笑)。濱田美弥議員(1期約4年・47歳)は議場で、子供のいじめに関する話をした後続けて、私が「市民の会」の議員の質問に対して、登壇答弁しないことを批判しました。あたかも、私が「議員への個人的な好き嫌いを理由にいじめのような酷いことをしている」と聞こえるようにです。

しかし、これも全くの間違いです。先に述べた、伊藤議員の6月議会での「誹謗中傷、虚偽」の発言に対して、「市民の会」の代表・降旗聡議員(2期約8年・今年50歳)に抗議しましたが、降旗議員からは「伊藤議員が俺の言うこと聞いてくれないんだよ~」と、会派代表とは思えない回答のみで、正式に謝罪も訂正もない状態でした。

そこで、9月議会がはじまる前に、再度、代表の降旗議員に対して、「こうした状態では、こちらも敬意を表することが出来ない。このままでは通例となっている『市長による登壇答弁』は難しい」との旨を伝えたところ、「謝罪はしない。登壇答弁は無しで構わない」との旨の返事が返ってきたのです。つまり「市民の会」の総意として、市長の登壇答弁は必要ないと表明されたのです。もっとも、登壇答弁をやめただけであり、「市長が答えるべき質問」には自席にて、しっかりと答弁するということに変わりはありませんでした。

つまり、これもまた、濱田議員による、「市長は酷い!傍若無人で横暴だ!」というイメージを市民に植え付けるための発言であり、こうしたことは幾度となく繰り返されています。「市長は右翼だ」「拉致被害者を救うための署名活動は宗教活動だ」というような耳を疑うような発言もこれまでにありました。

ミスリードによるコントロール!?

また、皆さんご存知のとおり、市長選挙の時も、「市長が障害者を追い出して、『はーとふるぽっと』を閉鎖した」と発信していましたが、事実は、「市民の会」の議員が『おあしす』の全体改修には反対し、『はーとふるぽっと』移転の予算は認めるという矛盾した行動をとった結果であり、私は障害者のさらなる就労につながる施設を提案していました。このことも、議会で何度もお伝えしていますが、私達行政側の答弁を全く無視し、虚偽の情報発信ばかりを展開していました。

こうしたミスリードにより市民感情をコントロールしようとする行動は、「市民の会」の議員全員に共通する手法です。市長選挙の際にも、同会派の稲垣茂行議員(3期約12年・71歳)を中心に「コミュニケーション障害者」「拉致被害者」を引き合いに出し、私への誹謗中傷を展開していましたが、そうした行動が多くの市民や関係者を傷つけていることに全く気が付かないということは、とても悲しいことです。

繰り返しになりますが、「市民派」とは何なのか?まさに、濱田議員が引用したことをそのままお返しするようですが、「市長に対する好き嫌いではなく、正しいことを市民に伝え、正しい判断を市民が下す」ために働くのが「市民派」なのではないでしょうか。議会を「自分達の好き嫌い」で満たし、「自分達の選挙を有利にする」ために発言するということは許されないことです。

市長は何を言われても、黙って聞いていろ!

―聞けば聞くほど理解出来ない……本当に「市民の会」の議員にはガッカリです。ママ達情報でもいろいろ聞こえてきたりします。以前「市民の会」に所属していた、戸田かおる議員を代表とする新会派「未来会議よしかわ」が結成された理由も、こうした議員達の行動に疑問を感じたからだと聞きました。

―そうですね。そして、その3名の議員が新会派を結成した後「市民の会」のこうした目に余る行動がさらに激しくなりましたね…。

私が「市民の会」や「共産党」の議員の行動に議場で異議を唱え、是正を求め、議会が中断するたびに、議員達は自らの「市政報告紙」において、「市長は思い上がっている!独善的だ!」と繰り返し、私に面と向かって「市長と市議は立場が違う!市長は何を言われても、黙って聞いていればいいんだ!」と言う始末です……。

長く議員を務めている議員がこうした行動、態度なので、他の模範になるどころか、それらを当然のこととして、若い議員が同じ行動をとるようになってしまっています。

―う〜ん、でも中原市長になってから、とても議会が分かりやすくなったし、興味が持てるようになりました。傍聴に行っても、資料とかも配布されていて。

「価値ある未来」を創るための「意味ある議論」を!

―ありがとうございます(笑)。市民に向けた正確な情報発信、情報公開は重要であり、率先して行ってきました。旧庁舎時代から始まった「議会中継」も、議会傍聴者に配布する「議論の内容一覧」や「分かりやすい予算書」「市長の施政方針演説」も全て私達行政が主導したものです。

しかし常に、一部の議員から「議員を尊重しろ。議員が見る前に市民に見せるな」という圧力がありました。また、「議会において、市長をはじめとする行政側にも反問や反論出来る権利を与えて欲しい、真の議論をお願いしたい」と何度も申し入れているにもかかわらず、議員の間で一向に議論が進んでいません。

そうした内情を「市民の会」の議員は当然知っているにもかかわらず、市民に向けて発信する内容は「行政側が情報をもっと公開しろ!」「予算書も市民がもっと早く見られるようにしろ!」という私達への批判ばかりです。私達は情報を公開することは全然構いません。むしろそうしたいと望み、抵抗勢力と戦ってきたのです。「市民の会」の議員達こそ、情報公開に向け、議会内部でやるべきことがあるはずです。

―何のために政治家になったんでしょうか…?

―私が求めているものはとてもシンプル、簡単なことです。それは①「未来に向けてしっかりとした議論」が交わされる議会。②議会の中断などで「税金の無駄使い」とならないよう、「ルールを守った」議会運営。この2点だけです。しかし一部の議員により、それと全く逆の事態が多発するのが、現在の吉川市議会の現実なのです。

こうした吉川市議会の現状は表には出ません。私がこうして発言すると、「市長が議会批判を展開している!けしからん!今後の議案を否決してやる!」と圧力をかけてくる議員がいるでしょう。

しかし、市民に正確な情報が提供され、意味ある議論がなされる議会を作り上げる責任は、市長である私にもあります。なぜなら、そうした議会こそが、市民と行政の「真の共動」につながり、吉川市を「価値ある未来」へと導くからです。ですから、今後もそうした圧力や抵抗に屈せず、責任と使命を持って発信しなければと思っています。

―う〜ん、市長って大変ですね…。徹夜で台風19号へ対応したり、様々な「まちづくり」を行っているのに、さらにそうした議員たちの圧力や理不尽さとも戦わなければならないなんて……。私達にも何か出来ることはないんでしょうか?

―ありがとうございます(笑)。皆さんのように市政に興味を持ってもらえることがまず嬉しいですし、そうした中で様々なご意見をいただければそれが「まちづくり」につながってゆきます。

市長というものは大変であたりまえです(笑)。だからこそ、全身全霊で取り組まなければなりませんし、これからも、選んでいただいた皆さんの思いを胸に、全力で活動してゆきますね。

―こちらこそありがとうございます!これからも市政運営に注目し、多くの人に吉川市の「まちづくり」の現状を知ってもらえるように私達も頑張ります!中原市長もお体にお気をつけて頑張ってください!今日はありがとうございました!

インタビュアー
後記

赤裸々に議会の様子を報告した中原市長のSNSの投稿は、多くの人の注目を集めました。そうしたことがあった後の今回の懇談会の話題の中心はやはり「議員・議会」でした。「市民派議員とは何か?」「私達に出来ることは何か?」とママさん達も改めて考える機会となった懇談会でした。